

Significance of Discordant Results Between Confirmatory Tests in Diagnosis of Primary Aldosteronism

福元, 多鶴

<https://hdl.handle.net/2324/4784458>

出版情報 : Kyushu University, 2021, 博士 (医学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

氏 名： 福元 多鶴

論 文 名： Significance of Discordant Results Between Confirmatory Tests
in Diagnosis of Primary Aldosteronism
(原発性アルドステロン症の診断において機能確認検査の結果が乖離する
意義)

区 分： 甲

論 文 内 容 の 要 旨

背景：原発性アルドステロン症の診断において、現在のガイドラインでは1つ以上の機能検査の陽性確認が推奨されているが、機能検査の結果が乖離した場合に複数の検査を実施する臨床的意義は確立していない。

目的：2つの機能確認検査の実施が原発性アルドステロン症の病型診断に与える影響を明らかにする。

研究デザインと設定：2つの施設における後ろ向き横断研究。

方法：2007年から2019年4月の間に当施設を受診し、原発性アルドステロン症が疑われカプトプリル負荷試験 (captopril challenge test; CCT) と生理食塩水負荷試験 (saline infusion test; SIT) を実施し、1つ以上の検査が陽性であった360人の高血圧患者を対象とした。副腎静脈サンプリング (adrenal vein sampling; AVS) の結果が病型診断に利用可能であった193人の解析を行った。

主要評価項目：機能確認検査の結果における両側性病型の頻度。

結果：193人のうち127人がCCT、SITともに陽性、34人がCCTのみ陽性、32人がSITのみ陽性であり、58人が片側性、135人が両側性と診断された。単独陽性症例は、2つとも陽性であった症例と比較し原発性アルドステロン症の臨床的特徴がより軽度であり、両側性と診断された割合が有意に高かった(63/66 [95.3%] vs 72/127 [56.7%]、 $P < 0.01$)。また、CCT単独陽性症例とSIT単独陽性症例の間でいくつかの臨床所見に有意な差を認めた。

結論：CCTとSITの結果が乖離する症例では、AVSで両側性と診断される割合が高かった。